

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 21年 4月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	2870600901		
法人名	一般社団法人 日本地域福祉協会		
事業所名	街かどケアホームのどか		
所在地	兵庫県神戸市長田区雲雀ヶ丘1-2-5 (電話) 078-646-9502		
評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2009年2月28日	評価確定日	2009年4月8日

【情報提供票より】(2009年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 12人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	68,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名	
要介護1	1名	要介護2	10名			
要介護3	5名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	84.4 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	丸山病院
---------	------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

・ホームは隣りに小学校が控えた高台に位置し、前が通学路になっていることから、玄関に図書室コーナーを設置し、児童が気軽に立ち寄り利用者と触れ合える場作りの工夫等、地域行事への協力参加も含め地域密着に積極的姿勢で取り組んでいる。利用者自身のこれまでの生活の継続を大切に、利用者を生活の主体としたケアの実践に取り組んでいる。好みの食事、衣服、人間関係や時間の過ごし方など、一人ひとりのこだわりを引き出し尊重した援助に努めている。利用者が安心して暮らせるよう利用者との信頼関係への努力をさらに深めつつ、18世帯の穏やかな家庭づくりを目指されることを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	・小地域ネットワーク会議での行事への協力参加等、地域との関係性を深めつつある。市担当者との連携においても意見交換できる機会をつくるよう努めていく姿勢である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	・職員の意見を吸い上げ現場責任者と管理者がまとめた。管理者は職員一人ひとりの目線の違いから、客観的視点の重要性、必要性を再認識した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	・地域代表の民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者代表、家族が出席しており、事業所の現況報告と意見交換が主である。協議の結果、地域で認知症ケアの講演会を開催した。今後さらに参加者を増やすよう積極的に取り組む方針である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	・家族から体調やケアについて、毎週の定期報告時に要望や意見をもらったり、来訪時に意見等がもらえるような日常的なコミュニケーションの強化に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	・地域福祉施設や地域代表による小地域ネットワーク会議の一員として昨年は地域の福祉健康祭りに協力参加した。小学校からの行事案内や中学校のトライアルウィークの受け入れなど子どもと利用者の交流を重視している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・事業所独自の理念ではないが、法人理念として「地域福祉の構築を目指す」ことを掲げ理念の実践に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・理念は日々の利用者と職員の関わり全てにおいての根幹となっている。職員自身の不安、迷い、疑問などが生じた時の立ち返りや、解決の糸口としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域福祉施設、自治会、民生委員等で構成された小地域ネットワーク会議への積極的参加により、昨年は地域福祉健康祭りに協力参加している。近隣小学校からの行事案内や民生委員からの情報提供もあり、利用者の希望に応じて参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は職員の意見を聞き、管理者、現場責任者がまとめた。職員が日常業務からの気づきを通じて第三者評価に活かすべく共有を図っている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・地域代表の民生委員、地域包括支援センターの職員、利用者代表、家族が出席している。事業所現況報告、意見交換が主である。認知症講演会の開催を決め実施した。会議案内は全家族に通知出席をすすめている。</p>		<p>・民生委員の協力を得て地域との関わりが広がりつつある。参加者をさらに増やしたいとする事業所の取り組みは評価できる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・小地域ネットワーク会議には、市担当者も出席し意見交換もなされている。</p>		<p>・ホームの現況報告や運営相談などで市との交流を深めることが期待される。</p>
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>・原則は週に1回家族に報告することとしている。医療面など必要に応じて電話で報告している。年2回の家族会では、事業報告、収支決算の報告も行っている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・随時での電話報告以外に、家族来訪時には、こちらから相談を持ちかけながら意見や要望を聞かせてもらっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・利用者の担当職員が変更になった場合は、引継ぎに十分時間をかけて、家族に安心してもらえるよう説明報告している。職員は担当制にこだわらないで全利用者及び家族と関わることを基本としている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じた育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部研修参加は職員の自主性を重視している。法人での定期的研修、事業所の全体会議内で行う研修は機会をとらえて実践的に行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・グループホーム連絡会や小地域ネットワーク会議により、情報交換、交流を図っている。他施設見学を兼ねて相互訪問の機会も作っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居待機時から、定期の連絡をして相談を受けるなど早くからコミュニケーションを図っている。入居決定後は、職員の訪問や他の利用者との交流を通じて、本人の納得を得るよう努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	・利用者は人生の大先輩であるので、多くの学びを得るのはあたりまえであると認識している。職員は利用者個々の生活のお手伝いをさせてもらい寄り添う関係づくりを築いている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>・利用者自身の言動と心身状況をきめ細かく把握することで本音を掴むよう努めている。家族には相談協力を得ることもある。</p>		
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>・日常に言動及び身体面の状態、利用者、家族の気持ち、かかりつけ医の情報などをもとに全職員で検討している。利用者の気持ちを汲み取り計画に反映するよう努めている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>・6ヶ月ごとの定期以外に、身体的変化により随時見直ししている。利用者本人の意向の変化や、新たなニーズが出たときは、家族と相談して計画に反映させている。</p>		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>・医療連携体制を活かして、入院の回避や早期退院の支援が行われている。職員は利用者のニーズに応えたスケジュールで行動している。認知症の講演会も行っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>・利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。受診時は利用者の普段の細かい変化についても報告している。家族と同伴して受診する場合もある。月一回協力医の往診もあり、適切な医療が受けられている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・利用者、家族の希望に応じた終末期の支援を行っている。ホームで看取りを希望の場合は、かかりつけ医も含め話し合っている。看取りの指針も作られ、職員は前向きに受け止めている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>・居室への入室は利用者の許可を得ている。申し送りは職員室で行い、記録の保管も徹底している。利用者の羞恥心への配慮は、直接的な表現を避け、後始末等は居室で行っている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>・職員は利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせた個別対応をしている。一人での散歩、2~3人での買物、カラオケ、陶芸教室、野球観戦等にも出来るだけ希望に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・メニューは決まっているが、希望があればその都度好みのものを作っている。準備、後片付けは利用者も手伝っている。職員も一緒に食事している。テーブルを多く設置され、日々の気分で席を変えられるよう配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・時間、回数は決めていない。24時間いつでも入浴することができる。入浴を拒否する人には、清拭、足浴から段階的に入浴につなげている。季節感あるゆず湯等も工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・調理、コーヒー入れ、ホームの周りの清掃、野菜や花作り等を役割として行っている。デイケアに出かけたり、写経をしたり、コーヒーを飲みに行ったり、日々変化のある過ごし方がなされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・個々の希望に添って一人での散歩や職員と買物に出掛けたり、季節の行事を楽しんだり、利用者本位での外出を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・夜間防犯上の施錠をしている。契約時に鍵をかけないケアについて家族に話し了解を得ている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>・今年2回避難訓練を行う予定。昨年は職員のみで行ったが、今年は利用者を交え、地域の協力も得て行う予定である。</p>		<p>・消防署の指導の下、利用者、職員で訓練されることを望む。地域の協力も得られると望ましい。</p>
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>・必要な人には食事量、水分摂取量のチェック表を作成している。好みのものの提供や、飲み物、果物等いつでも摂取できるようにしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・ベランダ、玄関に花が飾られている。食堂には冷蔵庫が2箇所に入れられ自由に出し入れできるようになっている。左右対称のトイレがあり、麻痺等のある利用者に対応できる配慮がなされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>・使い慣れた馴染みのものを持ち込み、ゆったりと過ごせる居室になっている。希望があれば畳敷きをしている。</p>		

 は、重点項目。